

2022年(令和4年)5月21日(土曜日)

中 日 新 聞

蔵人ら酒米の田植え

飛騨の老舗酒蔵が原料に使用

飛騨市古川町の老舗酒蔵「渡辺酒造店」の蔵人らが十九日、同市古川町内の田んぼ約七㌥で、酒米の田植えをした。



田植えに精を出す蔵人ら＝飛騨市古川町で

米農家の思いや大変さを共有することなどを目的に、二〇一七年から続く。米は、一度は姿を消した品種「ひだみのり」で、JA

南古城酒米組合の岩塚吉郎さんの作付けで復活。現在は渡辺酒造店のみが酒造りに使っている。今年植えた苗は、九月中ごろには刈り取り、十月からの酒造りに使うという。

蔵人らによる田植えは、新型コロナウイルスの影響で三年ぶり。この日は感染対策で例年より人数を減らし、蔵人をはじめとした従業員十六人が参加した。岩塚さんは「農家の気持ちになつて酒をつくるという思いに、同感している。『この米の酒だと飲める』という人もいて、喜びがたくさんある」と呼び掛けた。

参加者は長靴や素足で田んぼに入り、泥に足を取られながらも手で苗を植えていった。「田植えは五十二年ぶり」と笑みをこぼす村坂恵子さん(六三)は「腰は大変だけど、ストレスがすーっと消えていくようで楽しい」。はだしで田に入った蔵人の田辺稔彦さん(三三)は「お米は日本酒の原料とし

て欠かせないもの。ありがたみを肌で実感しました」と話した。(吉本章紀)